

# 進化する機内の資源循環 再生紙コップ、大空へ！

このPOPが目印

## 紙コップの回収・リサイクルにご協力をお願いします

We collect paper cups for recycling



### 機内の資源を循環させたい

今年も6月の環境月間がやってまいりました。環境月間は、気候変動などの環境問題への関心を高め、環境保全活動を促進するため、環境庁(当時)によって1991年に制定されたものです。

JALグループではご搭乗いただいたお客さまのご協力の下、機内で取り組んでいるリサイクル活動があります。それは、東京(羽田)を発着する国内線の一部路線で実施している「使用済み紙コップのリサイクル」です。

紙コップのリサイクルプロジェクトは、資源循環型社会を目指す日本製紙グループの皆さまからの提案によって動き出し、2022年12月に東京(羽田)―沖縄(那覇)線から始まりました。現在、回収対象路線は東京(羽田)―札幌(新千歳)・旭川・福岡・長崎・熊本・鹿児島・沖縄(那覇)に拡大しています(エアバスA350

### 紙コップから紙コップへ

1900型機とボーイング767-300ER型機運航便が対象。回収された紙コップは、当初は段ボールなどに再生されていましたが、今年6月、紙容器製品を製造している東罐興業にもご協力いただき、ついに紙コップから紙コップへの水平リサイクルが実現！

使用済みの紙コップを回収して再資源化し、新たな紙コップに再生させるといふ資源循環は、国内初の取り組みです(当社調べ)。再生紙コップは原料の約25%を古紙パルプが占めており、そのうちの

一部に機内で使用された紙コップが使われています。紙コップにデザインされた緑の「Re」の文字が、再生紙コップの目印です。再生紙コップは6月1日から約10日間、東京(羽田)発国内線にてご提供しています\*。ぜひお手元の紙コップにご注目ください。水平リサイクルには正確な分別



が求められます。今後もリサイクルを継続していく上で、資源を確実に回収していくためには、お客さまのご協力が欠かせません。「取り組みを続けていく中で、紙コップとその他のごみを分けて渡してください」お客さまが増えてきて、大変ありがたく感じています。これからもお客さまにご理解いただき、心地よく取り組みに参加していただけます」と、本プロジェクトを担当するESG推進部環境推進グループの山中沙綾は話します。

対象便では、客室乗務員が機内アナウンスにて分別回収のご案内を実施し、紙コップリサイクルのPOP(ページ上部参照)付き回収ボックスなどを持って、分別回収に当たっておりますので、ご協力をよろしく願います。

JALグループはこれからも、豊かな地球を次世代へ引き継ぐために、機内における資源循環を推進してまいります。

今回のテーマに該当する目標

\*在庫がなくなり次第終了、航路上の天候等の状況により、ご提供ができない場合がございます。あらかじめご了承ください。

## 紙コップから紙コップへの水平リサイクル



**1 客室乗務員が使用済みの紙コップを分別回収**

※航路上の天候やサービス上の都合により、分別回収を実施しない場合があります。  
 ※客室乗務員の手袋着用は任意となっています。



**3 東罐興業にて新たな紙コップへと再生!**



**2 日本製紙グループにて再資源化**

### 「紙糸タオル」プロジェクト、進行中!

JALグループは現在、日本製紙グループの日本紙通商の皆さまと共に、オリジナル「紙糸タオル」を製作中です。これは、日本製紙グループが進めている紙容器リサイクルプロジェクトから生まれたブランド“choito™”との協業。タオルのパイル部分は綿糸50%、紙糸50%となっており、この紙糸の原料の一部に、機内で回収した紙コップ等を含む古紙が使われています。今後は、『JAL SKY MUSEUM』での販売を予定しておりますので、どうぞご期待ください。



製作中の紙糸タオル試作品。



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

